

## 学校の不登校について



佐伯 欣子 議員  
(21政会・加西ともて育つ会)



**問** 不登校の現状と課題について。

**答** (教育長) 加西市は近隣市町の中でも、中学生の不登校が少し多い状況です。教育委員会、総合教育センター、学校現場も努力していますが、具体的な新しい手打つべき時期に来ているのではないかと思います。不登校の問題点の一つは、中学生を含む子供たちの居場所は、学校だけではないという考え方があることです。もう一つは、加西市特有の課題もあるのではないかと思います。謙虚に受け止め、具体的な

施策をしていかななくてはならないと考えます。

(部長) 不登校の状況として、社会不安、生活困窮、家庭内不和等が見受けられます。友人関係、学力不振等が要因の場合は長期化しない傾向ですが、精神的な疾患等が要因の場合は長期化する傾向があります。また、発達支援を要する児童生徒の不登校が増えています。現在は放課後等デイサービスの利用は難しい状況ですが、今後拡充される予定です。

**問** 不登校の対策について。

**答** 児童生徒の様子を日頃から観察し、相談しやすい環境づくりに取り組んでいます。また、スクールカウンセラーやソーシャルワーカーには心理、福祉の視点から本人、家庭、学校を支援していただいています。

**問** 不登校の子供たちの受け皿としてフリースクールの選択肢があるが、国の定義の位置づけがなく市においても就学援助制度が適用されない。子供たちの未来の選択肢が広がるような体制についての考えは。

**答** 加西市では、総合教育センター内に相談支援を行うふれあいホームを開設しています。また、兵庫県の但馬やまびこの郷では小中学生を対象に宿泊、体験学習等の支援が行われ、児童生徒が利用しています。今後は民間フリースクールとの連携、不登校特例校等の情報収集や視察を継続し、社会的に自立することを目指した支援に取り組みます。

### ■その他の質問項目

- ・市長施政方針について

## 高齢者の補聴器活用について



井上 芳弘 議員  
(日本共産党)



**問** 令和4年度の兵庫県のモデル事業として補聴器の助成が実施されるということですが、内容についてお尋ねします。

**答** 県が実施主体となる事業で、助成対象者は令和4年4月1日現在で満65歳以上で聴覚障害による身体障害者手帳の交付を受けていない方、耳鼻科医師により補聴器が必要と診断された方です。また、補聴器本体と付属品が助成対象で、認定補聴器技能者により調整を受けた補聴器であること、事後アンケートやモニタリン

グへ協力することなどとなっています。令和4年4月から5月に400人程度を募集し、地域や年齢等を考慮した上で抽選等の公正な方法で決定されます。補聴器の購入費用として上限2万円を助成することとなっています。

**問** 全国的には少ないですが、都道府県の取り組みと併せて、自治体も一緒に補助に取り組んでいる例があると思いますが。

**答** 明石市において、令和3年7月から今回の兵庫県の補助内容とほぼ同じ内容で、高齢者への補聴器助成を実施されていると聞いています。

**問** 東京都では、区も含めて非常に活発に高齢者の補聴器助成の制度が作られ、補助の上限も毎年のように上がってきています。自治体の役割として、非常に

大事な制度ではないでしょうか。

**答** この事業は、県がモデル事業として、また調査事業として実施し、まとめた結果を国へ制度提案をして本格実施を目指すと聞いています。県や国の今後の制度の拡充、本格実施については、少し見守っていきたいと考えます。

**意見** 国に要望している事業でも、加西市が単独で実施している事業がたくさんありますので、高齢者への補聴器購入助成もぜひ検討していただきたい。

### ■その他の質問項目

- ・財政について
- ・防犯灯の設置について
- ・道路整備について
- ・ごみ処理について
- ・教育について